

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970200721		
法人名	社会福祉法人 東徳会 和見山苑		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	栃木県 足利市 稲岡町 1064		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな山麓、眼下はのどかな田園が広がる環境のもとに位置し、四季の移ろいを五感で味わうことができる。敷地内には小さな牧場、池があり、動物、鳥、魚などとふれあうことができる。池の周囲の散歩コース、東屋での休息は利用者のみならず、地域の人達の憩いの場にもなっている。特別養護老人ホーム、デイサービスセンターに隣接し、緊急・災害時、行事等で協力、連携体制が整い、日頃より積極的に交流が図れるよう心がけている。地域の高齢者福祉を担う社会福祉法人として、地域と共に利用者が生きがいを感じ、生き生きとした笑顔溢れる生活が送れるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は足利市東部の山すそ、池や桜堤などに囲まれ、眼前に田畑の広がるのどかな場所にある。「ほたる」の名称はこの環境と蛍の光のようなゆったりとあたたかい光をイメージして付けられた。敷地内に東屋や牧場があり地域の人も気軽に訪れる。法人の特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接し密接な連携を行っている。運営推進会議は年間テーマが掲げられ、様々な意見提案が出され活発な会議になっている。また、法人では職員への様々な研修機会があり、その都度施設内報告がされている。身体拘束しないケアにおいても研修や実習を行っている。地域に積極的に行き出すよう努めており、地域住民の事業所への理解が進んでいる。災害対策の訓練も地域住民の参加を得て、年2回の法定訓練のほか毎月避難訓練を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合い掲げた「笑顔と優しい手・地域と共に輪を作る」が事業所理念として、玄関に入居者の手書きの書で掲示している。法人理念「長命から長寿へ」や職員行動訓、自戒等も掲げ日々取り組んでいる。	開設時に職員全員で話し合い掲げた地域密着型サービスの思いが込められた事業所理念は、現在も生きている。玄関に掲示し、申し送りの時に確認するなど職員間で理念を共有しながらサービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ参加、協力し、施設行事への理解、協力、参加を頂き、互いの交流を深めている。学生の体験や実習、ボランティア活動等、地域住民の見学、訪問に対応している。敷地内の池、桜堤は地域の方々が気軽に訪れる憩いの場所となり、地域の一員として交流を深めている。	自治会には法人で加入している。散歩時に地域の方とあいさつを交わしたり、地域の文化祭や近くの神社や寺での花見新緑に積極的に出かけた。地域住民のボランティア、学生の福祉体験受け入れなど日常的に地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者の生活の様子や支援方法等を伝えて、認知症の理解を頂く。秋祭りに地域住民を招き、認知症高齢者の活動状況を理解して頂く。12月の運営推進会議では駐在所員を招き、地域で認知症高齢者を支えるための講話を頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回、定期的に開催する。毎回、入居者、職員状況、活動報告を行い、評価や助言を頂いたり、質疑応答、外部評価の結果や指摘事項を踏まえての意見の交換を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者代表・家族代表・副自治会長・民生委員・市担当者の参加で開催され、状況報告の他、質問や提案も多く実りある会議になっている。次回会議には消防・警察も参加予定で議題も決まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加を頂き、適切な助言、指導を頂き、質疑応答を行う。電話、メールや市役所への訪問等で随時連絡や相談をしている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席し、介護情報等をもらったり、電話やメール・訪問などでも丁寧に助言してもらったりなど、市とは良好な関係が築かれている。地区文化祭や市のふれあいの集いに利用者の作品を展示したり見学なども行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の勉強会やマニュアル等で周知している。管理者が出席する毎月の法人内会議で身体拘束の議事があり、施設内会議で報告する。新人職員は新人研修にて受講している。玄関、居室等は拘束しないケアを心がけ、日頃より状況に合わせて工夫している。	法人全体の研修を行うほか、サービス実践の中で管理者が指導したり、また職員同士気を付け合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。動きを制限してしまうような言動はしないようにしており、新人職員研修で基本的なことを学んでいる。玄関は状況により施錠するが、基本は開けてあり、ブザーが鳴っているようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の勉強会やマニュアル等で周知している。管理者が出席する毎月の法人内会議で身体拘束の議事があり、施設内会議で報告する。新人職員は新人研修にて受講している。職員は勿論、家族と入居者の円満な関係の継続のための支援も行っている。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、1名の職員は外部研修にて学びの機会を得ることができた。折に触れ、申し送り等で人権擁護について理解の機会を持ち、成年後見制度等は必要に応じて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用いて詳細を分かりやすく説明している。説明後に不安なこと疑問点について、十分に話し合い、理解頂き、納得された上で手続きを進めている。トラブルがないよう、注意を払いながら今後も行ないたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族には運営推進会議に参加頂き、外部者を交えた話し合っている。年1回家族アンケートを行い、玄関には目安箱を設置している。毎月、利用料受領の際、1ヶ月間の状況報告を行い、意見要望を伺っている。	家族会があり、年2回法人の和見祭と交流会を開いている。年1回ホーム独自に実施している家族アンケートや毎月の面会時や運営推進会議での意見・要望を参考に、利用者・家族の意向を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの際、活発な意見交換を行っている。毎月の施設内会議でより深い意見交換をし、毎月の法人内会議で施設の意見、提案を報告している。	毎日の申し送りの時や日常の現場で職員の意見・提案を聞いており、毎月の職員会議の中でまとめている。申し送りノートも利用している。また、各委員会でのアンケートなど、意見・提案が出しやすいように工夫し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人27年度計画に「職員の充実と育成、自らが作る働きやすい職場環境への改善」が掲げられ、一丸となって取り組んでいる。安全衛生委員会で就業環境について話し合い、アンケート等で意見を求めている。管理者との面談、目標管理シートや自己評価シート等も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修プログラムがあり、それに沿って一人一研修が掲げられている。法人内の勉強会が毎月あり、外部講師を招く会もある。研修報告はレポート、資料の掲示、回覧のほか、毎月の施設内会議時に報告している。今年度は事業所内で認知症勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム交流会、県内施設リーダーとの交流会に参加、職員1名が研修で県内施設リーダーと交流を持ち、他施設での研修の機会を持つことが出来た。この経験を会議にて職員に伝え、サービス向上を目指している。また、他施設職員が研修に来られ、交流が持てた。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの話を参考にして、本人がゆったりとできる環境下でゆっくりと時間をかけて面談し、表情、会話の内容、家族からの情報から気持ちを汲み取り、アセスメントする。傾聴することで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所待機申し込み段階から気軽に話し合う機会を作っている。契約する前に面談し、本人、家族が気持ちを吐き出して頂き、不安、要望を汲み取り、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人、家族の状況を詳細に聞き、困っていることを確認し、要望を踏まえてサービス内容を考える。必要によっては他事業所の紹介、連絡を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは積極的に手伝って頂き、出来ることは職員と一緒にやって頂いている。入居者間でもお互いを思いやり、助け合う姿が見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を中心に各行事への参加、協力を頂き、家族が積極的に支援を行なっている。慰問、外出の際、家族の参加も頂く。状態変化時、定期受診は、家族付き添いに協力頂くこともあり、常に連絡を取りながら、信頼関係を深めて一緒に支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係が継続できるように、馴染みの人が気軽に来苑できる環境を作り、面会は頻繁に行なわれている。馴染みの場所へは家族の協力も得て、時々訪れている。	隣接のデイサービス利用の知人に会いに行ったり、地域の人が慰問してくれたり、地域の人々の葬儀に参列したりと、馴染みの関係継続の支援をしている。家族の協力を得て、季節を感じられる場所にドライブに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にみんなで話ができるように場面を作るように心がけ、会話が弾むような声掛けを行なっている。日常生活や散歩等で、お互い出来ることを助け合い、励まし合い、声を掛け合っている。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の葬儀での最期の別れ、家族の来苑、電話連絡等がある。家族会のサポートメンバーとして引き続き、協力頂き、付き合いを継続できる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、好み、趣味等を本人、家族より随時聞き、思い、意向の把握に努めている。意思確認が難しい場合は家族より意向を伺い、本人の思いを職員全員で検討している。	職員は特に入浴時などでの会話や日々の表情などから本人の思いを汲み取り、一人ひとりの意向の把握に努めている。困難な場合は家族などから聞いて本人本位に検討しサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みの際生活歴やサービス利用状況を確認し、契約時、詳細をアセスメントしている。利用を開始されてからも随時、本人、家族から話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り等で状況を把握し、必要時には意見交換を行っている。担当者会議や施設内会議にて居室担当者を中心に意見交換を行い、より深い理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時、会議にて意見交換を行い、本人、家族より思い、意向を伺い、主治医の指示、助言を踏まえて作成している。日々の申し送り等でも意見を出し合い、反映させている。	職員会議で、家族の要望・意見や主治医や看護師の意見をもとに、日々のケアに関わっている職員を加え検討し、本人の現状に即した介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、状況の変化が生じた時は見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのまま記録し、状況から思いを汲み取れるようにしている。また、言葉のない方は表情や様子を記録している。記録を申し送り時に読み上げ、情報を共有し、実践に活かし、介護計画の見直し等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で対応できるよう、行事等で交流を深め、法人会議で各事業所の状況を報告し、情報の共有も行なっている。併設特養への入所やデイサービスや短期入所利用者の入居がある。馴染みの職員、場所の継続に努めている。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ参加、協力し、施設行事への理解、協力、参加を頂き、互いの交流を深めている。小中学生、高校等の体験や実習等、地域住民の見学、訪問、ボランティアの慰問もあり、楽しい時間を共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望に沿い、家族と連携し、医療機関へ情報提供、受診介助を行い、かかりつけ医の継続受診を支援している。事業所の協力医療機関とは、こまめに状態報告を行い、相談し、指示を仰いでいる。往診対応も頂いている。	かかりつけ医はできる限り継続受診できるよう支援している。適切な医療を受診できるように、看護師を通じて連絡メモを家族に渡し、医療機関と連携をとっている。緊急時等、状況により職員付き添いによる受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々の申し送りで状況にあったケアの提案、健康状態の確認を行なっている。職員は定期的な勉強会を行い、技術の向上に努めている。家族の意向、主治医の指示を受け、状況にあった支援が出来るように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供書の提出、必要に応じて電話連絡、訪問を行い、連携を取っている。入退院、経過は医師、家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、看護師等で話し合い、早期退院、受け入れが出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と契約時に必ず話し合いを持ち、その後年1回以上話し合いの機会を設け、方針を決めている。施設協力医が主治医の場合、医師を交えた話し合いとなる。その情報を全職員で共有している。終末期はこまめに本人、家族の意向を確認しながら支援している。	看取りの指針があり、契約時に説明している。年1回は家族、看護師、管理者で方針を確認しており、重度化を迎えた時は家族に看取りについて再確認をしている。全職員で情報を共有しており、職員も看取りについての理解を徐々に深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルや資料を定期的に確認し、連絡先の確認も行なっている。外部研修、法人勉強会の参加、随時看護職員からの指導、助言を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と協力体制を築き、定期的な訓練を行い、本年度は地域住民参加で2回訓練を実施する。災害時の協力体制について、2度の訓練、先日の水害を運営推進会議で取り上げ、強化に努めている。	隣接の特別養護老人ホーム等と合同で年2回の総合避難訓練を実施している。回覧板で呼びかけ1回は地域住民にも参加してもらっている。今年度から炊き出し訓練も行った。毎月、避難訓練を実施し、ボランティアにも参加してもらっている。備蓄は、地域住民の分を含め、3日分の食料品や毛布などが確保されている。	避難訓練に地域の方が参加してくれるなど、地域の協力が得られるようになったが、事業所全体の利用者の重度化が進み車いす利用者も多いため、職員数の少ない夜間の避難誘導など、さらに地域住民の協力が得られるような取り組みを期待したい。

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴、性格を把握し、人格を尊重し、家庭的で安らぎを感じられる言葉掛けを心がけている。プライドやプライバシーを損ねない対応、個人情報等の取り扱いにも注意した対応を心掛けている。	事務室の入り口に声かけの心得を掲げ、職員は常に利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしている。その人が何を大切にしてきたのかなど把握しながら、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細なことでも思いに沿った支援ができるように言葉かけ等を工夫している。毎月のお楽しみ献立は希望に沿ったメニューで提供し、お茶の種類を選択、行事への参加、入浴等、自己決定が出来るように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場を考慮した範囲で、思いに沿った、その人らしい生活が送れるようにコミュニケーションをとり、思いを汲み取って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容の出張が訪問し、本人、家族の希望でカットやカラー等をされる。また、家族が散髪される方の支援も行っている。着衣の選択を行い、お好みの服で生活されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の差し入れが多く、急遽メニューを変更し、季節の味、家庭の味を楽しんで頂く。皆で育てた紫蘇を収穫してジュースを作り、食の楽しみを感じ、買い物、食事の準備、後片付けを一緒に行い、生きがいを、食の喜びを感じる支援を行っている。	献立・食材調達は業者を利用している。摂取困難な方がいる場合には法人管理栄養士に相談している。家族からの食材の差し入れが多く、利用者好みの物を取り入れている。台所は広く入りやすく、準備、片付け、食事は利用者と職員が会話をしながら一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、1日の水分摂取量は記録し、適量が摂取できるように支援している。必要量の摂取が難しい方は主治医、管理栄養士等に相談し、栄養補助食品の利用、好みの食品、摂取しやすい形態の食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外部口腔ケア研修に全職員が参加し、看護職員の指導の下、毎食後、個々の力を活用した口腔ケアを正しい方法で行い、夜間は義歯の洗浄除菌をし、清潔保持に努めている。必要に応じて協力歯科医、歯科衛生士に相談している。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力を活用できる方法で支援するよう心がけている。出来る限りトイレでの排泄を継続できるように排泄チェック表を活用し、失敗しないような支援をしている。	個々の排泄チェック表を活用しトイレでの排泄を支援している。職員は朝の申し送り等で排泄状況の把握、共有に努めている。耳元での小声や何気ない声かけ誘導で、羞恥心に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分摂取表等を活用し、看護職員が中心に管理している。毎日定期的な運動、乳製品等の摂取、散歩で出来るだけ薬に頼らない自然な排便を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	要望に沿い、気持ちよく入浴して頂けるような工夫し、本人の思いを大切に支援を心がけている。意思表示が難しい方は表情等を観察し、気持ちを汲み取るように努めている。	浴室は、入浴介助しやすいように浴槽の両サイドにシャワーが設置されている。週2・3回の入浴は利用者の要望に応じた温度にして、一人で入浴する方にも安全に配慮した声かけをしている。また、ゆず湯など季節感を楽しめる支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように気配りをし、思いや生活習慣を大切に休息、昼寝が出来るように支援している。夜間安眠できるように日中の活動も工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量は看護職員の指導の下、医務連絡帳を活用して理解の徹底を図っている。服薬チェック表、バイタルチェック表を活用し、状態を把握し、変化等は記録している。受診時に看護職員が手紙等で、健康、服薬状況を主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好み、趣味等を考慮した役割や作業を行い、生きがいを持って生活できるように支援している。買い物、行事や散歩等で気分転換を図れるように支援している。また、法人内、他事業所での慰問等へ参加して楽しみを増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の手入れ、花の鑑賞、自然を感じる散歩や車椅子の入居者を介助した散歩と思いを大切に支援をしている。買い物や馴染みの場所へのドライブの機会を増やしている。また、本人、家族からの希望で普段出来ない家族と共に外出、外食、車椅子使用者の帰宅を企画している。	外のプランターに種を蒔き花の手入れをしたり、戸外を散策して季節を感じてもらっている。個別に職員と一緒に出かけたり、法人の車を利用して、四季折々の場所や思い出の場所に外出する支援をしている。また、家族の協力を得て家族との外出の機会も設けている。	

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、訪問販売、外出の際、一緒に欲しいものを選び、家族からお預かりし、管理している小遣いで、自分の財布から本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出がある際は電話をかける事を支援している。また、知人からの電話の取次ぎをしている。手紙を書きたいと希望される方は一緒に書き、届いた手紙を一緒に読む支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者が生けた季節の花があり、壁には季節を感じるみんなで作った作品、思い出の写真が飾り、心和む空間を演出している。気温、湿度、照度に気を配り、鳥のさえずり、四季の風、山の四季等の自然を感じる日々を過ごされている。	リビングの片隅には広い量の間があり、壁面には利用者と職員合作の四季を感じる飾り物、外出時の楽しそうな写真が飾られている。天窓から柔らかい光がゆったりとそそぎ、温湿度も管理され不快な臭いもない。テーブルには季節の花が飾られ、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、気の合った入居者の歓談の場となっている。ホールに広い畳スペースを配置し、くつろいで頂く。玄関先にはベンチを設置し、自然を感じ、季節を感じながら、歌を歌い、お茶を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を入居時に持ち込む方が多く、思い思いの空間を演出している。状況に応じて、家族と相談して搬入、引き上げをされている。また、壁に家族の写真や絵、書等、思い思いに飾られている。	カーテン、ベッド、マットは備え付けである。利用者は馴染みの冷蔵庫やブラケースを置き、子や孫の手紙や家族の写真、絵画など自由に飾り、安心して過ごせるよう工夫している。掃除は朝の内に掃除好きな利用者が行い、居室担当者が確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かした表示で理解を求めたり、声掛けを工夫して理解して頂き、禁止しない生活が送れるように努めている。個々が快適に過ごせるよう、互いを尊重して過ごせるような環境づくりを心がけている。		